

エネルギー政策についてのアンケート調査

県では、平成28年3月に策定した「しがエネルギービジョン」に基づき、「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の実現に向けた取組を進めているところです。

今後、ビジョンに基づく施策の更なる推進を図っていくための参考とするため、アンケート調査を実施しました。

★調査時期：平成29年6月

★対象者：県政モニター400人

★回答数：339人（回収率84.8%）

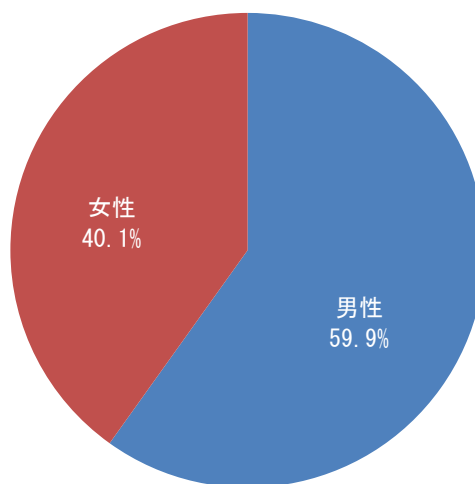
★担当課：県民生活部 エネルギー政策課

※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。

【属性】

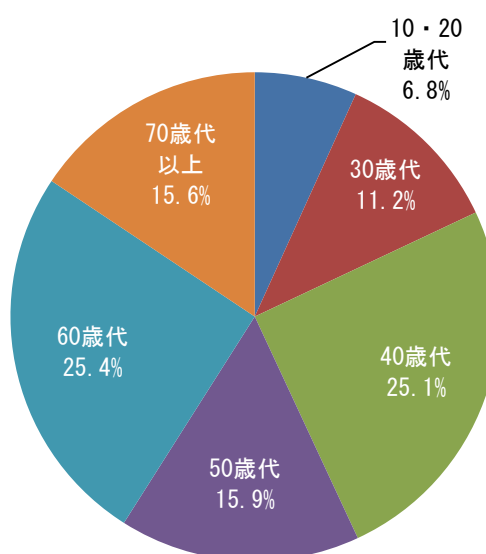
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	203	59.9%
女性	136	40.1%
合計	339	100.0%



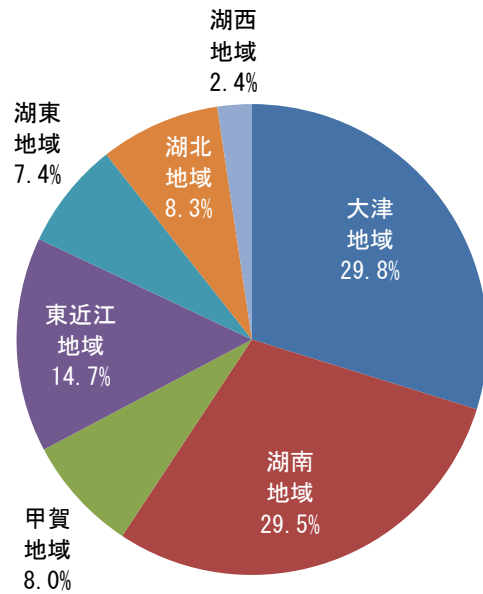
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	23	6.8%
30歳代	38	11.2%
40歳代	85	25.1%
50歳代	54	15.9%
60歳代	86	25.4%
70歳代以上	53	15.6%
合計	339	100.0%



◆地域

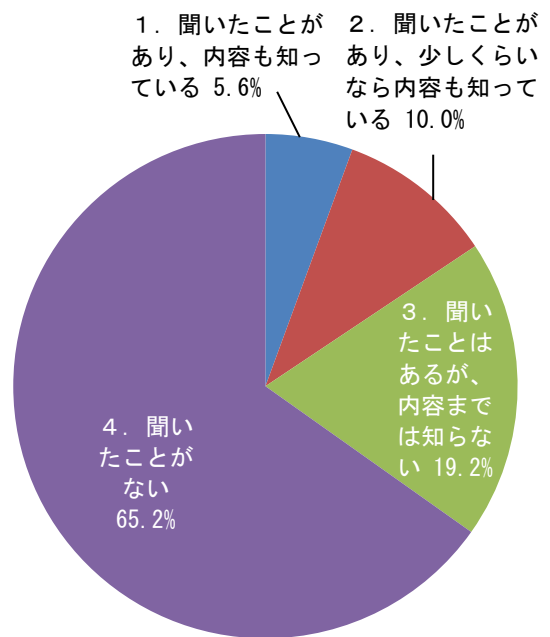
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	101	29.8%
湖南地域	100	29.5%
甲賀地域	27	8.0%
東近江地域	50	14.7%
湖東地域	25	7.4%
湖北地域	28	8.3%
湖西地域	8	2.4%
合計	339	100.0%



■「しがエネルギービジョン」全般についてお尋ねします。

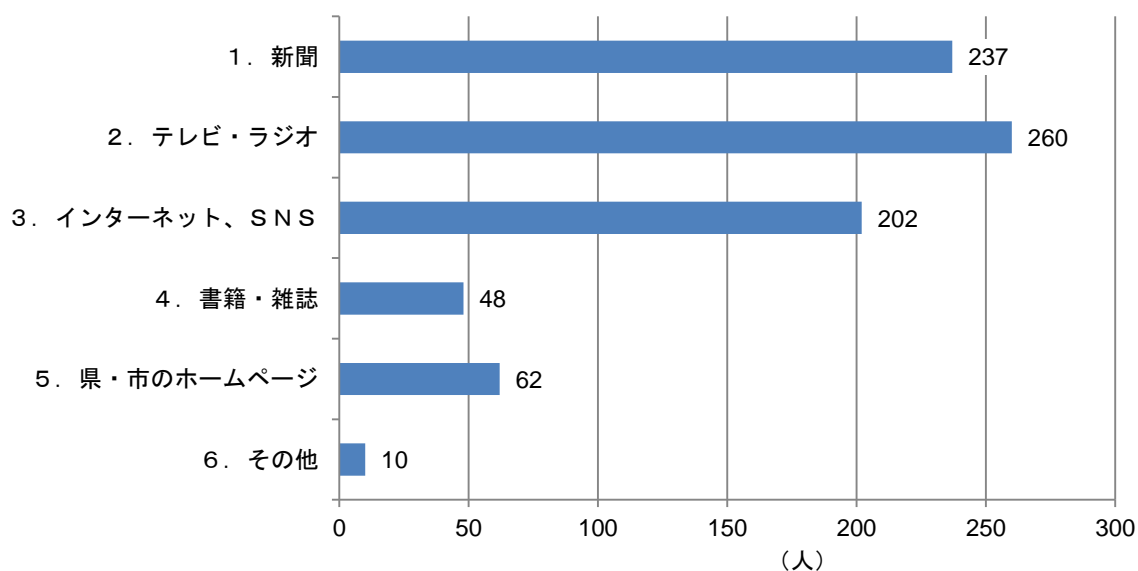
問1 「しがエネルギービジョン」を知っていますか。(回答チェックは1つだけ。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 聞いたことがあり、内容も知っている	19	5.6%
2. 聞いたことがあり、少しくらいたら内容も知っている	34	10.0%
3. 聞いたことはあるが、内容までは知らない	65	19.2%
4. 聞いたことがない	221	65.2%
合計	339	100.0%



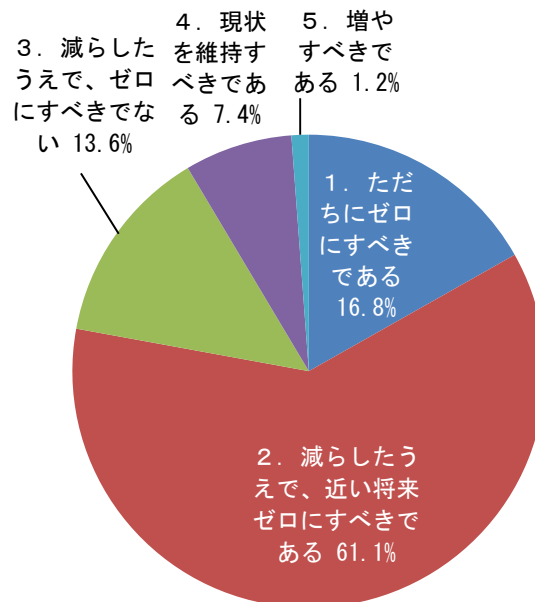
問2 日頃、エネルギーに関する情報はどこから入手していますか。(回答チェックはいくつでも。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 新聞	237	69.9%
2. テレビ・ラジオ	260	76.7%
3. インターネット、SNS (Facebook、Twitter等)	202	59.6%
4. 書籍・雑誌	48	14.2%
5. 県・市のホームページ	62	18.3%
6. その他	10	3.0%



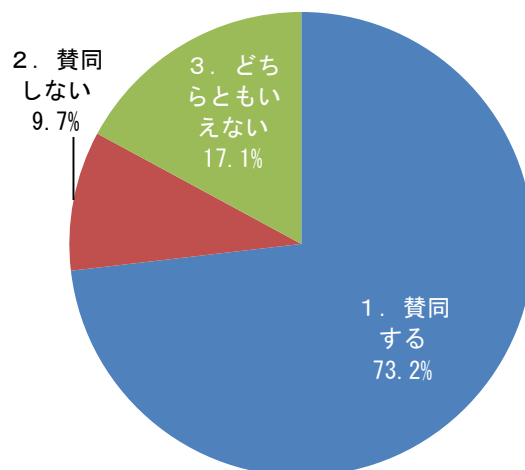
問3 原発依存度を中長期的にどうしていくべきと思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. ただちにゼロにすべきである	57	16.8%
2. 減らしたうえで、近い将来ゼロにすべきである	207	61.1%
3. 減らしたうえで、ゼロにすべきでない	46	13.6%
4. 現状を維持すべきである	25	7.4%
5. 増やすべきである	4	1.2%
合計	339	100.0%



問4 滋賀県では、「しがエネルギービジョン」の基本理念に「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の実現を掲げ、原発に依存せず、「社会」(災害等のリスクに強い安全・安心な社会)、「環境」(低炭素な社会)、「経済」(地域内経済循環による地方創生)をも同時に満たす、持続可能な新しいエネルギー社会の実現を目指していますが、この理念についてどのように思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 賛同する	248	73.2%
2. 賛同しない	33	9.7%
3. どちらともいえない	58	17.1%
合計	339	100.0%



問5 問4で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

「1. 賛同する」を選択した理由

- ・琵琶湖を持つ滋賀県独自の方針を貫く政策をこのまま進めてほしい。
- ・技術的に未完成の原発（福島原発事故を見れば分かる）をなくし、安全な新エネルギーに変わることが重要である。
- ・東日本大震災の時に、原発の恐ろしさを知ったから。
- ・原発は先の震災で明らかになったとおり安全性に問題がある。また、最大の課題である核廃棄物の処理問題についても未だ解決されていない。そのような現況で、今後も原発を継続していくことは絶対にあり得ない。一方、産業等日本の現状を考えると、直ちに原発ゼロ社会にすることも現実的ではない。従って、今取り得る最善の行動は代替エネルギーの開発など持続可能な新しいエネルギー社会を目指し、原発と決別することである。
- ・原発に頼るべきではないと思います。次の世代に不安を持ち越さないのが今の大人の責任かと思います。
- ・原子力発電は人類の科学ではコントロールしきれないから。
- ・子、孫に選択肢のないリスクだけを継承することはさげたい。持続可能な新しいエネルギー社会は共に議論できるし、発展的に継続できる課題であると思う。
- ・粘り強く原発ゼロを訴えるべき。
- ・原発はまだまだ解決しなければならない問題が山積している。原発を止めることで今の生活が不便になったとしても、将来に問題を先送りすることは賛成できない。
- ・東日本大震災を背景に原発事故の恐ろしさを目の当たりにして、原発の安全性に疑問を抱き、一方で再生可能エネルギーに対する注目度が増す中で、この基本理念は最適である（可能性がある）と思ったからです。

「2. 賛同しない」を選択した理由

- ・原発に依存せず、災害等のリスクに強い安全・安心な社会、低炭素な社会を目指すとしているが、これらには矛盾が多すぎる。具体的にどうするのか明確にすべきで、原発反対ばかり言ってあおりたてるのは、現実味がない。すでに原発は存在するのであるから、廃炉にするにしても今ある原発材料をどうするのか、使わないでジッと置いておいても何のお役にも立たず、あるものは原子力委員会の管理の下に使わないと大きな無駄になる。
- ・ベース電力としての原子力にかわる有力な発電法がない以上、電気の安価安定供給の実現に原子力発電所は欠かせないから。
- ・化石燃料の使用は温暖化対策に逆行する。再生エネルギーのコストに飛躍的なブレイクスルーがない現状では、原発は少なくとも現状を維持すべき。
- ・過去の実績から原発が果たした成果は大きい。原発がなくなれば、電気をはじめとするエネルギー資源は低効率となり、需要と供給が安定せずコスト増に繋がる。また、原発保

有地区では、失業など労働資源の喪失も心配される。負の面だけでなく、プラスもしっかりと見極め判断してほしい。

「3. どちらともいえない」を選択した理由

・何が最善か、いまの時点ではわからない。

・原発は、事故が起これば最悪となるが、発電効率もコストパフォーマンスも優れた発電方法だと思います。事故の起さない管理体制を構築し、安全で環境に優しい代替発電ができるまで原子力発電は捨てがたいです。

・現時点で、「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の具体的なイメージがわからないから。言うのは簡単だが、電気代や安定的なエネルギー供給が行えるのか不明である。

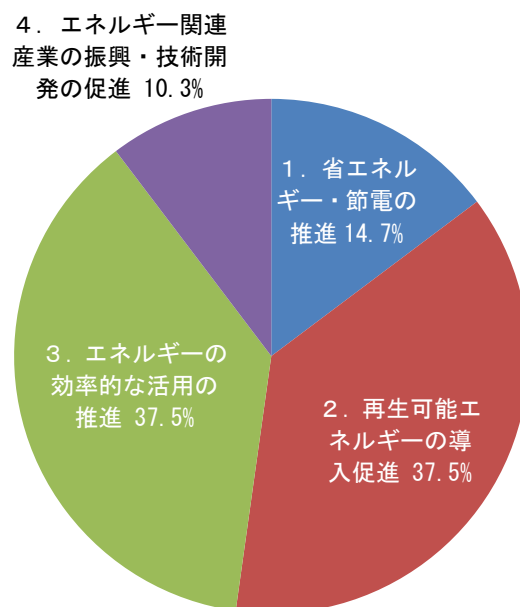
・「原発に依存しない」ことに関しては、賛成であるが、現実問題として原発分を補う代替エネルギーの具体的なビジョンが見えない。火力にしても環境破壊など別の面での問題があり、具体性が現認できない。

・実現をめざしていくべきだとは思いますが、原発関連の職で生計をたてている人もいる。そういう人の職を失う事を考えれば、もろ手をあげて賛同とは言えない。

・今すぐ原発なしでは無理だと思うし、現在ある原発を廃炉にするまでの年月、その処理等が未知数だ。原発に代わるだけのものが今はない。

問6 「しがエネルギービジョン」に掲げる4つの基本方針のうち、もっとも重点的に取り組むべきだと思うのはどれですか。(回答チェックは1つだけ。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. エネルギーを「減らす」(省エネルギー・節電の推進)	50	14.7%
2. エネルギーを「創る」(再生可能エネルギーの導入促進)	127	37.5%
3. エネルギーを「賢く使う」(エネルギーの効率的な活用の推進)	127	37.5%
4. 上記(選択肢1~3)の3つの取組を「支える」(エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進)	35	10.3%
合計	339	100.0%



問7 問6で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

<p>1. 省エネルギー・節電の推進を選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金をかけず、すぐ実現できる可能性が高い。 ・省エネルギーにはまだまだ余地があると考え。 ・まず「減らす」ことが、大前提であるため。 ・再生エネルギーだけでは、現在の消費量を賄いきれない。 <p>2. 再生可能エネルギーの導入促進を選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域発展するには、エネルギーは消費しなければ達成しない。ゆえに、エネルギーをつくる必要がある。 ・電力の自給自足ができれば原発が不要になるため。 ・石油もいつかはなくなる訳で、代替りのエネルギーが必要になる。
--

・省エネルギー・節電の推進は難しい課題であり、今の世では徹底も難しい。国をあげて再生可能エネルギーの導入促進に取り組むべきと思う。

・減らし、賢く使うのは当然として、資源の少ない日本にとっては創ることが重要だと思います。

・エネルギーを使わずに暮らすことは不可能なので、どれだけ安全で簡易なエネルギーを作り出せるかが、現在の原発依存から脱却する道だと思うので。

3. エネルギーの効率的な活用の推進を選んだ理由

・エネルギー供給量を大きくせず、快適に暮らすためには、現在の供給量で必要なエネルギーを無理せず使用する工夫が必要。

・エネルギーを使うことで今日の利便性が培われているので、一番効率的に使うことが、創ったり、減らしたりにつながると思う。

・いずれのエネルギーを採用するにしても、発生量に限りがあるので、この〔限りあるエネルギー〕を、企業も家庭（個人）も賢く使うことが最優先。賢く使うためには皆が知恵を絞らねばならない。これが〔全員参加〕に繋がる。

・エネルギーの効率的な活用にはまだ工夫の余地が大きいから。

・経済活動の発展と自然環境の保全・維持を考えると、エネルギーの効率的な利用についてまずは検討すべきだと考えるから。

・節電や創ることも大切であるが、もっと見直しとして大きな面で考えていくほうがよいと考えるため。

・（エネルギー使用量を）減らすだけ、（再生エネルギー等を）増やすだけでは不十分。最適な組み合わせを研究すべきと考えます。

4. エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進を選んだ理由

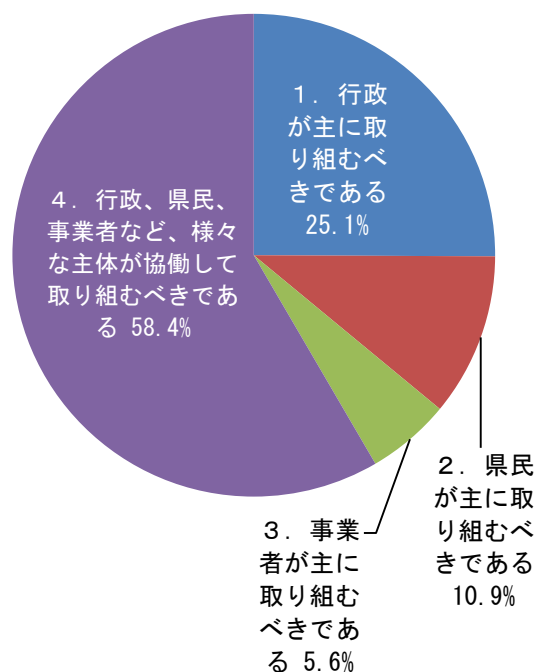
・エネルギーの3つの取り組みはどれも大切なので、それを支える取り組みが一番重要だと思います。

・現在エネルギー開発が途上にあり、新しいエネルギーに頼りたいならば、技術開発が急がれるから。

・エネルギーを節約し過ぎると、経済発展に限りが出てきそう。新しい技術が確立されれば、原発に頼らなくても良くなる。

問8 問6のような取組は、主にどの主体が取り組むべきと思いますか。(回答チェックは1つだけ。n=339)

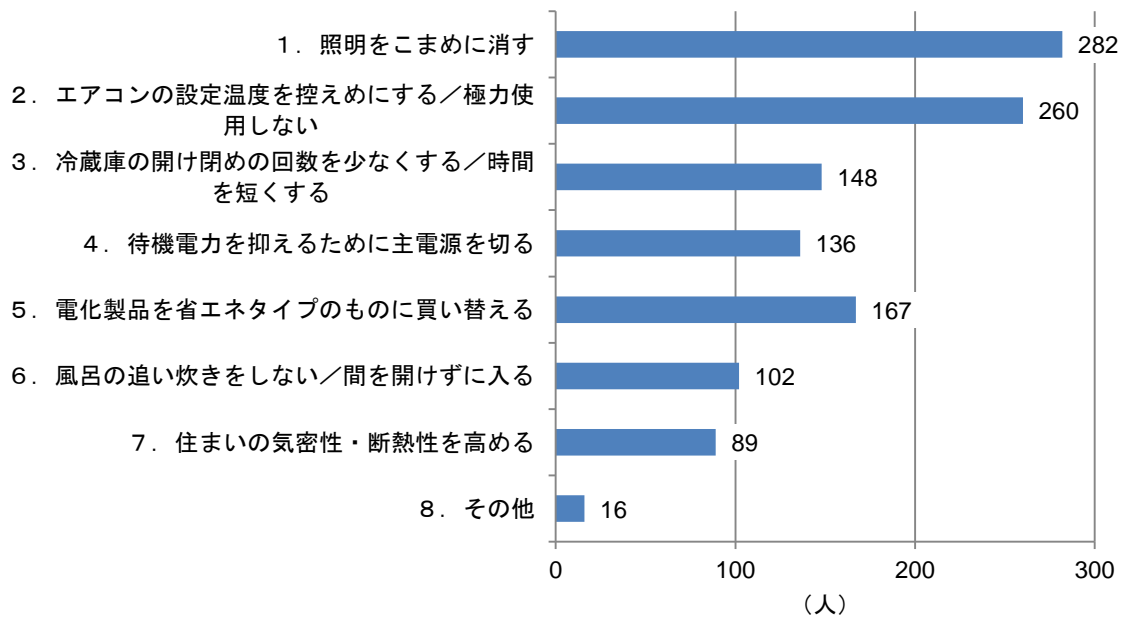
項目	人数(人)	割合(%)
1. 行政が主に取り組むべきである	85	25.1%
2. 県民が主に取り組むべきである	37	10.9%
3. 事業者が主に取り組むべきである	19	5.6%
4. 行政、県民、事業者など、様々な主体が協働して取り組むべきである	198	58.4%
合計	339	100.0%



■「省エネルギー・節電の推進」についてお尋ねします。

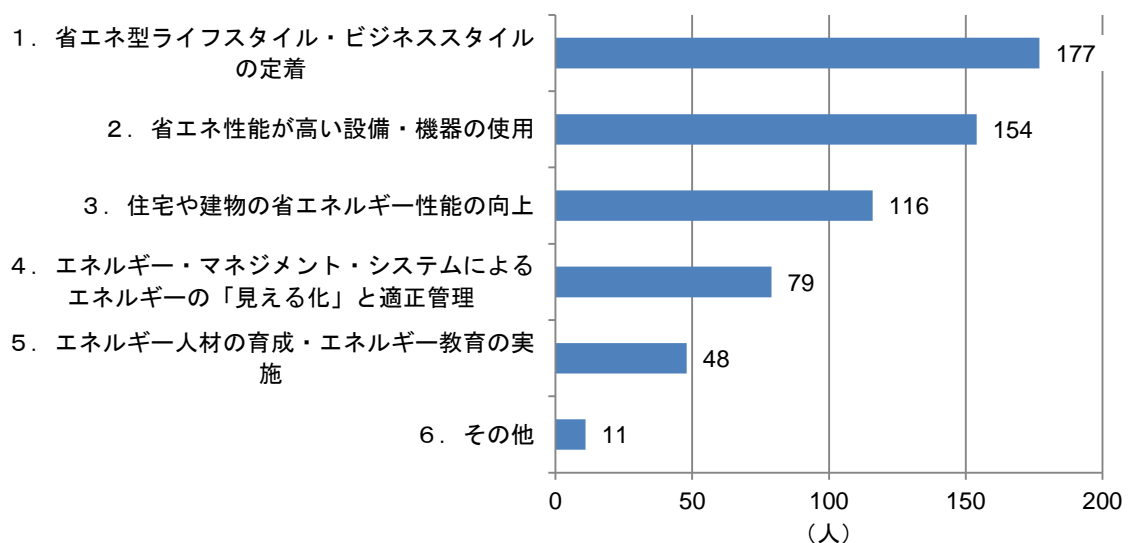
問9 あなたは、暮らしの中でどのような省エネルギー・節電を心がけていますか。(回答チェックはいくつでも。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 照明をこまめに消す	282	83.2%
2. エアコンの設定温度を控えめにする／極力使用しない	260	76.7%
3. 冷蔵庫の開け閉めの回数を少なくする／時間を短くする	148	43.7%
4. 待機電力を抑えるために主電源を切る	136	40.1%
5. 電化製品を省エネタイプのものに買い替える	167	49.3%
6. 風呂の追い炊きをしない／間を開けずに入る	102	30.1%
7. 住まいの気密性・断熱性を高める	89	26.3%
8. その他	16	4.7%



問10 今後、さらに省エネルギー・節電を推進していくために、どのような取り組みに特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは2つまで。n=339)

項目	人数 (人)	割合 (%)
1. 省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルの定着	177	52.2%
2. 省エネ性能が高い設備・機器の使用	154	45.4%
3. 住宅や建物の省エネルギー性能の向上	116	34.2%
4. エネルギー・マネジメント・システムによるエネルギーの「見える化」と適正管理	79	23.3%
5. エネルギー人材の育成・エネルギー教育の実施	48	14.2%
6. その他	11	3.2%

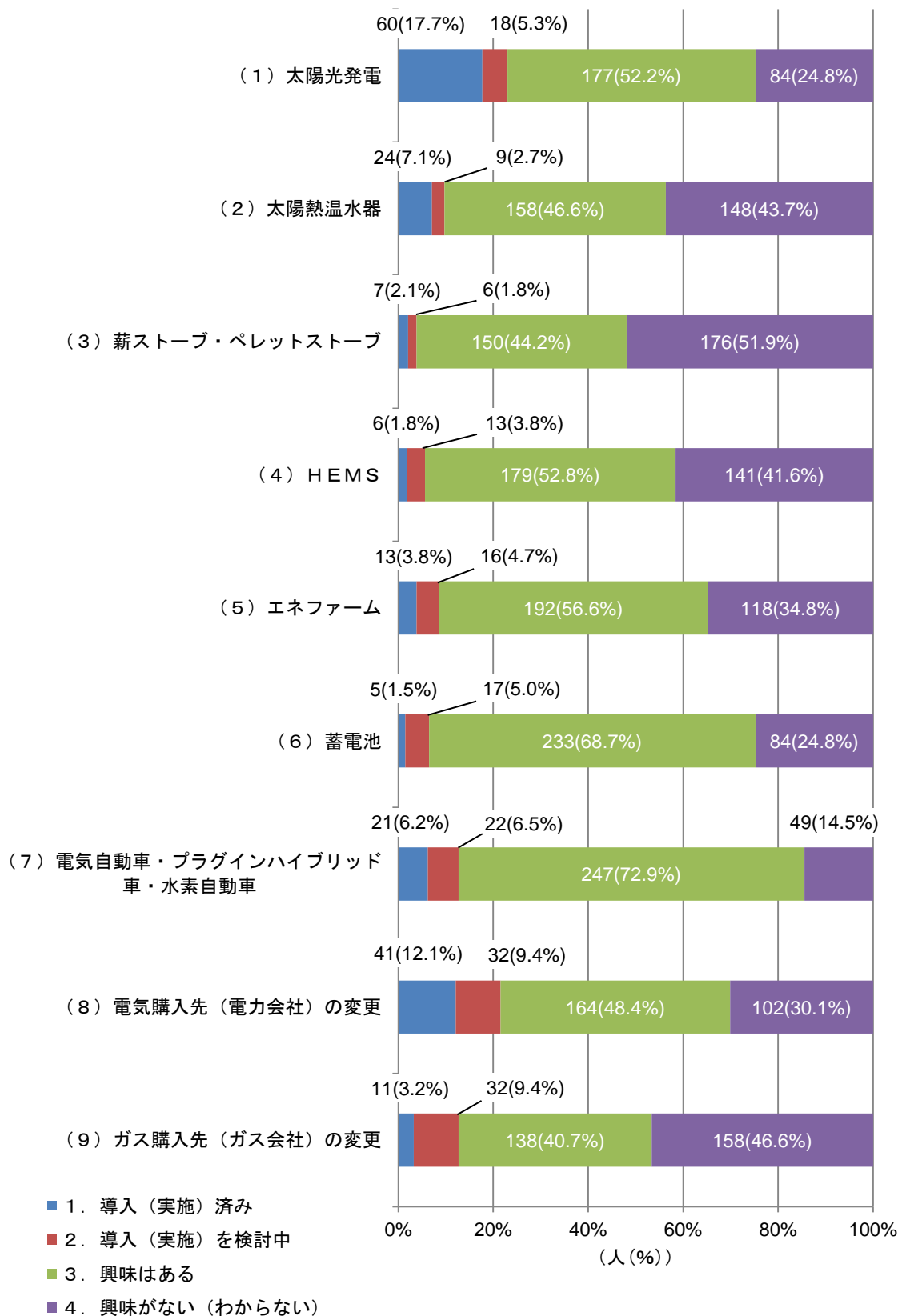


■「再生可能エネルギーの導入促進」等についてお尋ねします。

問11 あなたは、次の(1)～(9)の機器等を導入(実施)していますか。(回答チェックはそれぞれ1つだけ。n=339)

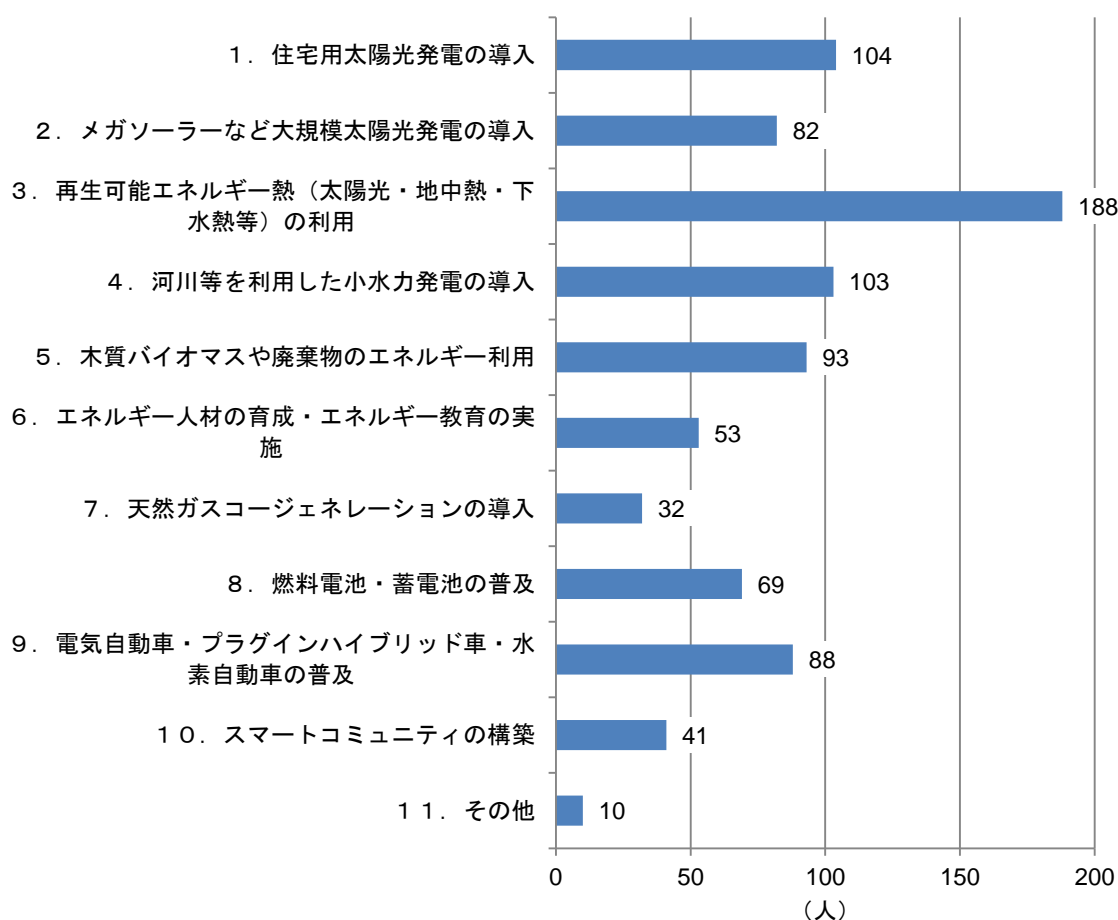
(人(%))

	1. 導入(実施)済み	2. 導入(実施)を検討中	3. 興味はある	4. 興味がない(わからない)
(1) 太陽光発電	60 (17.7%)	18 (5.3%)	177 (52.2%)	84 (24.8%)
(2) 太陽熱温水器	24 (7.1%)	9 (2.7%)	158 (46.6%)	148 (43.7%)
(3) 薪ストーブ・ペレットストーブ	7 (2.1%)	6 (1.8%)	150 (44.2%)	176 (51.9%)
(4) HEMS(住宅向けのエネルギー・マネジメント・システム)	6 (1.8%)	13 (3.8%)	179 (52.8%)	141 (41.6%)
(5) エネファーム(家庭用燃料電池コージェネレーションシステム)	13 (3.8%)	16 (4.7%)	192 (56.6%)	118 (34.8%)
(6) 蓄電池	5 (1.5%)	17 (5.0%)	233 (68.7%)	84 (24.8%)
(7) 電気自動車・プラグインハイブリッド車・水素自動車	21 (6.2%)	22 (6.5%)	247 (72.9%)	49 (14.5%)
(8) 電気購入先(電力会社)の変更	41 (12.1%)	32 (9.4%)	164 (48.4%)	102 (30.1%)
(9) ガス購入先(ガス会社)の変更	11 (3.2%)	32 (9.4%)	138 (40.7%)	158 (46.6%)



問12 今後、さらに再生可能エネルギーの導入等を促進していくために、どのような取り組みに特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは3つまで。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 住宅用太陽光発電の導入	104	30.7%
2. メガソーラーなど大規模太陽光発電の導入	82	24.2%
3. 再生可能エネルギー熱(太陽光・地中熱・下水熱等)の利用	188	55.5%
4. 河川等を利用した小水力発電の導入	103	30.4%
5. 木質バイオマスや廃棄物のエネルギー利用	93	27.4%
6. エネルギー人材の育成・エネルギー教育の実施	53	15.6%
7. 天然ガスコージェネレーションの導入	32	9.4%
8. 燃料電池・蓄電池の普及	69	20.4%
9. 電気自動車・プラグインハイブリッド車・水素自動車の普及	88	26.0%
10. スマートコミュニティの構築	41	12.1%
11. その他	10	2.9%



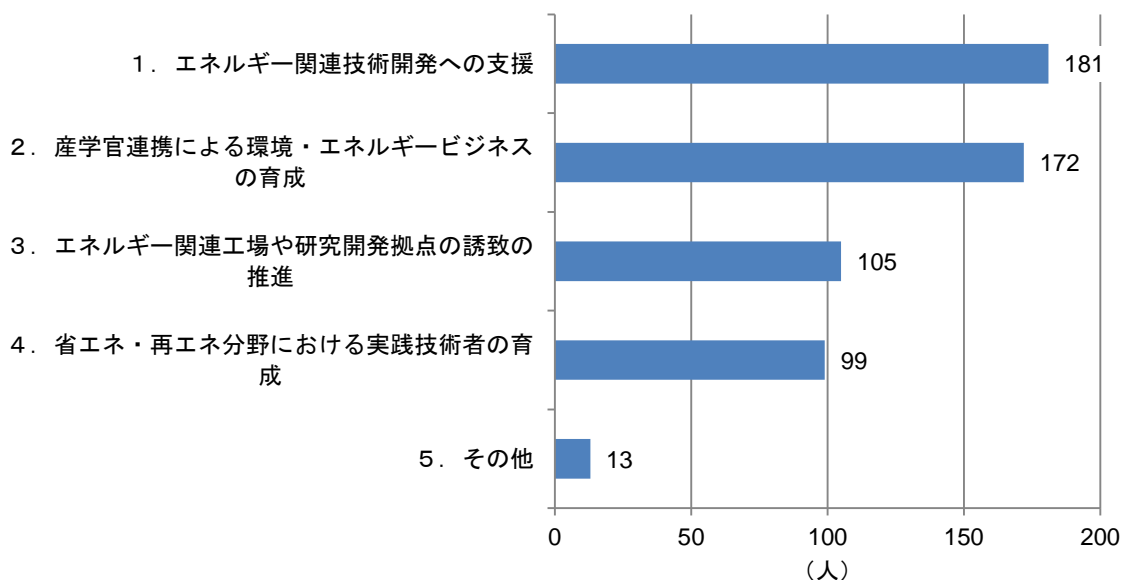
問13 問12で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

- ・より自然を利用した方法を望む。
- ・より実現可能性の高いものから順に選びました。
- ・設備投資に大金が必要でないから、一般家庭でも取り組みやすい。
- ・代替エネルギーとして効果が期待できるため。
- ・導入効果が大きいと思われる項目を選定。
- ・エネルギー調達先の多様化は、資源の少ない日本にとって優先すべき課題だと思います。
- ・スマートコミュニティ思想には大いに興味をひかれる。
- ・各家庭で、できる範囲で、エネルギーの利用を考えていく必要がある。
- ・人材育成、教育・啓発が最も大事だと思います。人が育ち、人が変革しなければ何も変わりません。
- ・水素の利用を急ぐため。
- ・資源は限りがあります。誰かのものではなく、地球上のみんなのもの。自然のものを無駄なく利用していく責任が我々にはあると思います。
- ・太陽光の宿命である天候依存と昼間のみの稼働についての対策として、燃料電池や蓄電池による補完も効果的だと思います。
- ・昔に戻って水力発電が一番いいのではないのでしょうか。
- ・電気自動車は急速充電設備をもっと増やすとか、購入時に県独自の上乘せ補助金を出すなどすれば、普及が爆発的に進むと思う。
- ・水源が豊富な滋賀県は河川を利用した発電が可能ではないのでしょうか。
- ・設備費などがあまりかからない、とっつきやすい方法から実行すべきだから。
- ・エネルギー人材を育成していただいて、より良い方法で、再生可能エネルギーを導入する社会をつくっていただきたいです。
- ・地球上のエネルギー資源は無尽大にある訳でない。これからも継続的に発展できるように、再生可能エネルギーに傾注すべきである。
- ・ゴミ処理場の排熱をもっと利用できないかと思っている。
- ・蓄電池は重要だと思う。研究の価値あり。

■「エネルギー関連産業の振興・技術開発の促進」についてお尋ねします。

問14 今後、さらに省エネルギー・節電や再生可能エネルギーの導入等を進めていくために、どのような取り組みに特に力を入れていく必要があると思いますか。(回答チェックは2つまで。n=339)

項目	人数(人)	割合(%)
1. エネルギー関連技術開発への支援	181	53.4%
2. 産学官連携による環境・エネルギービジネスの育成	172	50.7%
3. エネルギー関連工場や研究開発拠点の誘致の推進	105	31.0%
4. 省エネ・再エネ分野における実践技術者の育成	99	29.2%
5. その他	13	3.8%



問15 その他、持続可能な新しいエネルギー社会の実現に向けて、御意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・地域でも実現可能なマイクロ水力発電について学びたい。
- ・大規模なソーラーが、田んぼを埋め立てて設置されていることが少なくない。発電量は確かに増加したことは間違いないだろうが、周辺環境悪化がひどい。熱い・眩しいといったソーラー設置による弊害にも、もっと配慮がなされるように啓発等があると良いと思う。
- ・活発に推進しておられると思います。
- ・CMやテレビで見かけることは多いですが、県や身近なところで何か普及のために行われていることがあるのかはあまり知らないのが現状です。目に、耳にとまる何かがあれば、もっと身近に感じられるのかなと思います。

- ・省エネと言われているが、何かを我慢したり、初期投資のお金がかかったり、家庭への負担額が大きい。補助金が出てもそれだけではやっていけない。省エネを実現するのはいいけど、家庭に負担のかからないようにしてほしい。
- ・競争心を利用する方法の導入。再生エネルギー等の発電量等を公表して競争心を沸かせる。
- ・無限にある太陽のエネルギー(熱・紫外線)を最大限取り入れて、活用すべき。将来は全家庭にソーラーパネルを取り付けたい。
- ・太陽光発電やその他の再生可能エネルギーの発電効率はまだまだ低い。逆に言うとコストがかかる。電気メーカーや大学の研究を政府、行政が支援して国家全体で開発に力をかけてほしい。
- ・1人ひとりの意識改革がまずは必要だと思います。勉強の機会を増やす。そのためには人材育成して、講師陣の確保も必要。
- ・再生可能エネルギーのエネルギー変換効率が未だに十分ではない上に高コストなので、技術が進歩するまでは、原子力発電を使っていけないと厳しいのではないかと思います。
- ・原発の安全利用を推進してほしい。
- ・個人として再生可能エネルギーの活用について関心を持っているが、その導入には多額の資金が必要になる。また、これらの公的資金の補助制度もリフォームや設備業者の営業トークで初めて知ることがあった。ただ、工事の内容や組み合わせによって補助制度の内容も異なるようで分かりにくかった。マスコミなどを通じた広報活動も積極的にお願いしたい。
- ・再生エネルギーの現時点での進捗を公表し、今後の指針を行政は示すべきである。方向感が不明である。コストの問題、技術的な問題、そして、短期的、中期的に、今何をなすべきかをはっきり示してほしい。
- ・どうも行政は掛け声だけで、自ら行動を取っていないように感じる。何か具体例を行い、県民等を引っ張っていかないと、持続可能な新しいエネルギー社会の実現は難しいのではなかろうか。
- ・生き方、価値観の見直し。
- ・ソーラーパネルの変換効率の改善や蓄電池の技術向上を図る取り組みに行政も支援してほしい。
- ・持続可能だけでなく、安定した日常の生活や事業環境が維持されるような、安定供給を実現できるエネルギー政策の検討を十分実施してほしい。
- ・将来の持続可能なエネルギー社会の実現のためには、今は原発が必要である。
- ・先ず滋賀県より始めるべきと考えます。温暖化、原発の危険性等は待ったなしです。
- ・リスクはある程度許容せざるを得ない性格のものであるが、何といたっても原発のリスクは高すぎるので将来的には廃止するに越したことはない。エネルギー資源の乏しい現段階

の日本にやみくもに即原発廃止など無謀なことを言っても国力の低下を招くだけで、競争力を失ってしまうし、製造拠点の海外流出にもつながってくる。確たる転換の技術見通しを見極めながらソフトランディングすべきと思う。